



ハタハタ 日本海北部系群 令和6年度資源評価結果

生物学的特性

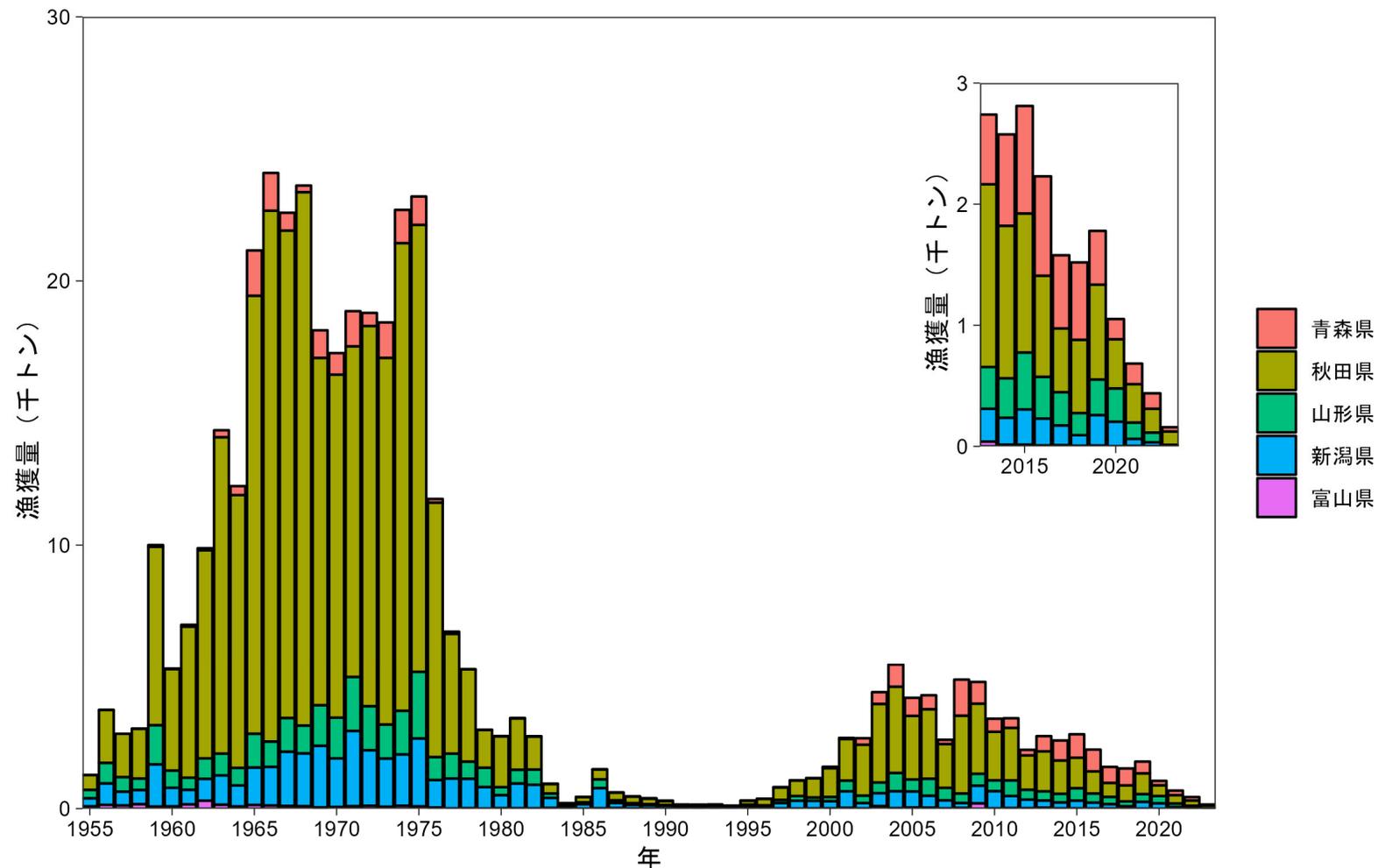


生物学的特性

- 寿命：5歳
- 成熟開始年齢：
雄1歳（割合は不明）
雌2歳（100%）
- 産卵期・産卵場：
12月上・中旬
主に秋田県沿岸の藻場
- 食性：
端脚類、撓脚類、オキアミ類、イカ類、魚類
- 捕食者：
大型魚類（マダラ等）

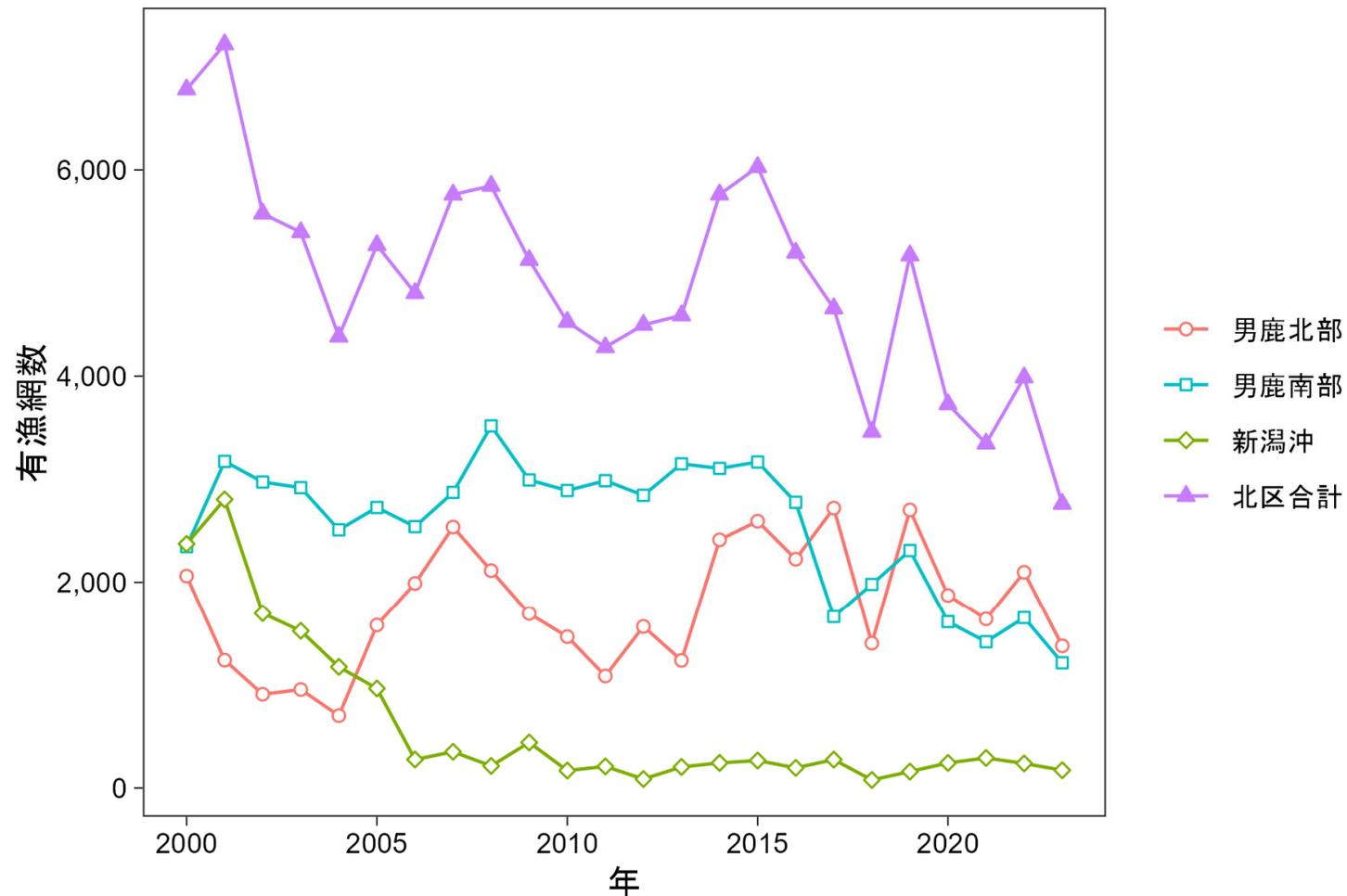
- 産卵接岸群は冬季に定置網漁業で、沖合へ移動した群は底びき網漁業（沖合底びき網漁業（沖底）と小型底びき網漁業（小底））で禁漁期間を除き周年漁獲

漁業の動向①



- 主漁法は底びき網、定置網
- 近年の漁獲量は減少傾向、2023年の漁獲量：158トン

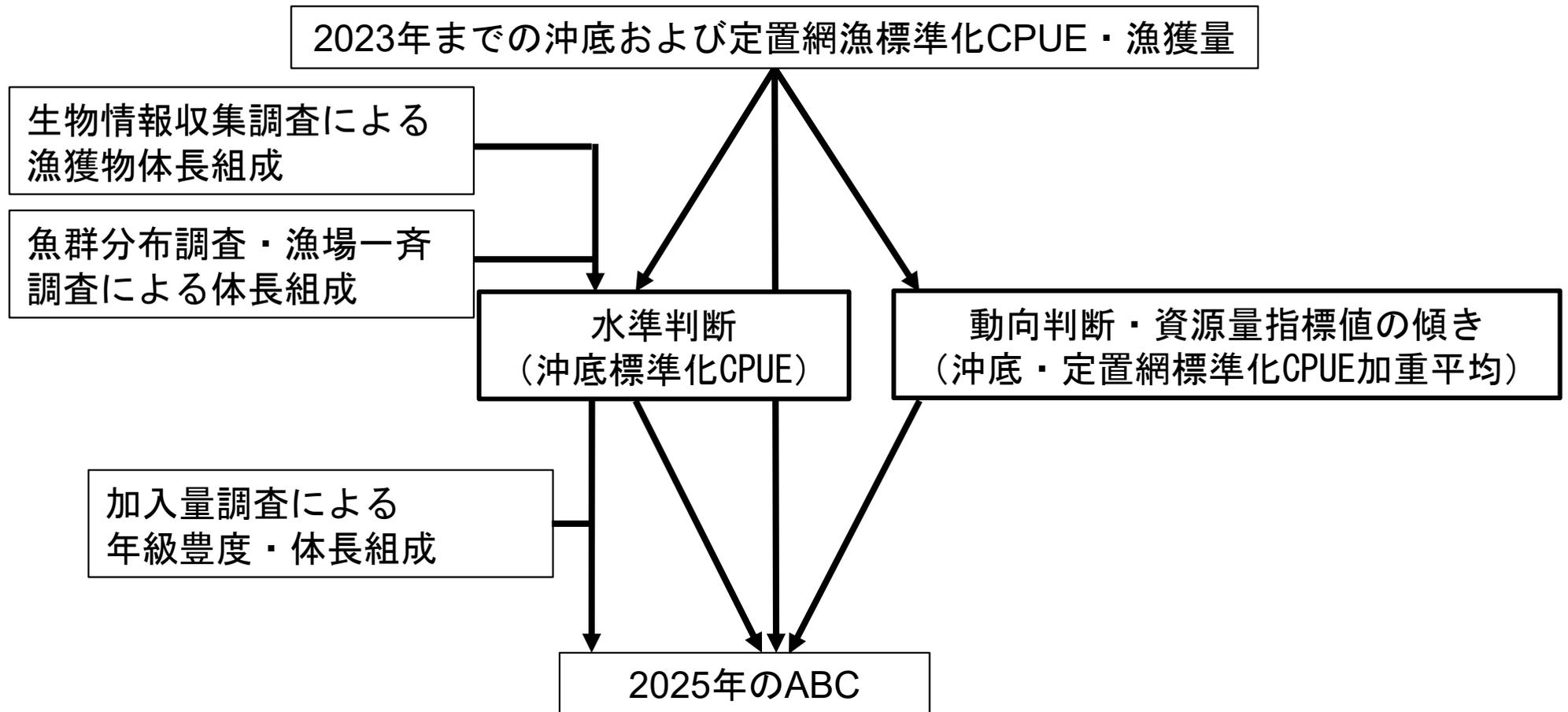
漁業の動向②



- 沖底の有漁網数は、男鹿南部・新潟沖を中心に、長期的には減少傾向

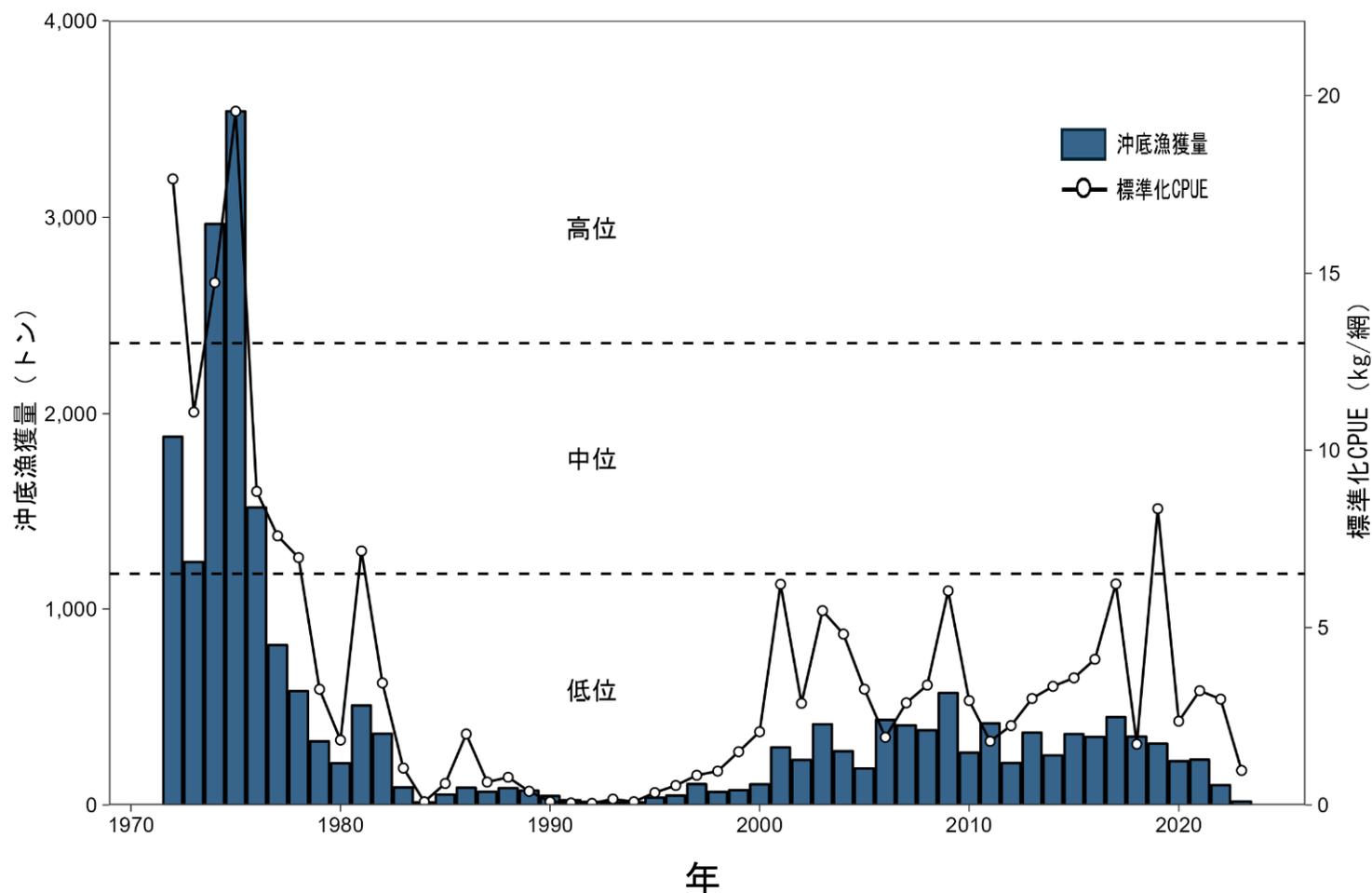
※有漁網数：ハタハタの漁獲があった日・船の曳網数

資源評価の流れ



※ABCは漁業法改正前の考え方に基づく基本規則を適用した値

資源の動向①

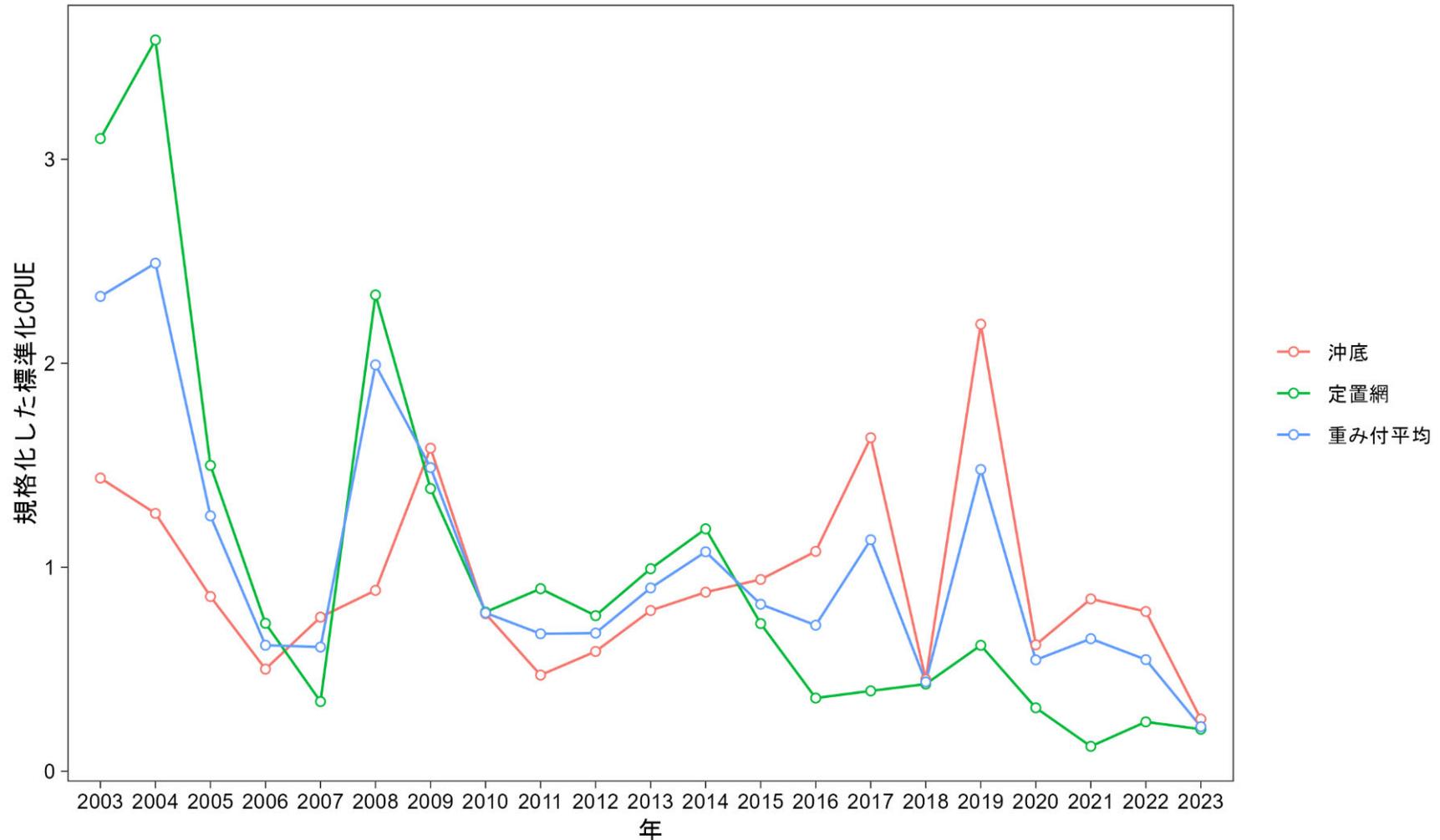


※水準区分 低位／中位：標準化CPUE 6.5、中位／高位：標準化CPUE 13.0
(標準化CPUEの最高値を3等分して算出)

- 資源水準：沖底標準化CPUEから判断。2023年の標準化CPUEは1.0であり「低位」

※標準化CPUE：資源や操業による偏りを取り除いた、1操業当たりの漁獲量

資源の動向②



- 資源動向：直近5年間（2019～2023年）の沖底・定置標準化CPUE重み付平均の推移から「減少」

※重み付平均：沖底および定置の標準化CPUEをそれぞれ底びき網（沖底・小型）と定置網の漁獲量で重み付けした平均値

資源評価のまとめ

- ハタハタ日本海北部系群の資源水準は「低位」、動向は「減少」
- 沖底標準化CPUEと、沖底・定置網標準化CPUE重み付平均に基づいて資源水準、動向を判断

2025年ABC

| 管理基準 | Target/Limit | 2025年ABC (百トン) | 漁獲割合 (%) | F値(現状のF値からの増減%) |
|-------------------|--------------|-------------------|-------------|-----------------|
| 0.7・Cave3-yr・0.54 | Target | 1 | — | — |
| | Limit | 2 | — | — |

- 漁業法改正前の考え方に基づく基本規則2-1) により、
 $ABC\ limit = \delta_1 \cdot Ct \cdot \gamma_1$ で計算
- δ_1 : 0.7 (低位水準での推奨値)
- Ct : Cave3-yr (直近3年間(2021~2023年)の平均漁獲量)
- γ_1 : 0.54 (直近3年の標準化CPUEの傾きと平均値に基づく係数)